

5. 単元指導計画

「たしざんと ひきざん」(全4時間)

時	ねらい	学習活動	評価規準と評価方法
1	順序数について、加法や減法が適用できるとを理解し、問題を解決することができる。	<p>1. 問題をつかむ。</p> <p>はるかさんは まえから6ばん目です。しんごさんは はるかさんのつきからかぞえて7ばん目です。しんごさんは まえからなんばん目でしょう。</p> <p>2. 課題をつかむ。</p> <p>ブロックをうごかして しきを見つけよう</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 まえ □ □ □ □ □ □ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 1 2 3 4 5 6 7</p> <p>① はるかさんまでを□ はるかさんからを■で表す。 ② しんごさんまでは、□と■の数をあわせた数だから ③ 「ブロックがくつつく」だから たし算になる。 ④ 式は $6+7=13$ こたえ13人目</p> <p>3. まとめをする。 「じゅんばん」を見つけるときも、たし算やひき算を使って考えることができる。</p> <p>4. 評価問題に取り組む。</p>	<p>ブロックに置き換えることにより、順序数の数量の関係をつかみ、加法や減法の適用場面であることをブロックを通して見つけようとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>評価問題</p>
		<p>「6に7がくつついた」という操作が順序数の操作につながる。</p> <p>すをみてかんがえよう</p>	
2	異種の量について、加法や減法が適用できるとを理解し、問題を解決することができる。	<p>1. 問題をつかむ。</p> <p>しゃしんをとります。5このいすに一人ずつ すわり、6人立ちます。なん人で しゃしんをとるのでしょう。</p> <p>2. 課題をつかむ。</p> <p>ブロックをうごかして しきをみつけよう</p> <p>いす 人</p> <p>.....5人.....6人.....</p> <p>① いすの数と人の数をブロックで表す。 ② いすにすわった人の数が 5人・・・□を置く ③ 立っている人が 6人。 ④ そうすると、人の数は5と6をあわせた数だから ⑤ 「ブロックがくつつく」だから たし算になる。 ⑥ 式は $5+6=11$ こたえ 11人</p> <p>3. まとめをする。 いすの数と同じ人の数をブロックで表すことによって人の数を求めるたし算の式で計算することができる。</p> <p>4. 評価問題に取り組む。</p>	<p>異種の数量をブロックに置き換え、1対1対応させることによって、同種として捉えることができ、加法や減法を適用し、立式して計算で答えを求めることができる。 【表現・処理】</p> <p>評価問題</p>
3	求大の場面で加法を適用し、問題を解決することができる。	<p>1. 問題をつかむ。</p> <p>コアラが4ひきいます。りすはコアラより6ひきおおいそうです。りすは なんひきいるでしょう。</p> <p>2. 課題をつかむ。</p> <p>ブロックをつかって しきをみつけよう。</p> <p>6 おおい</p> <p>コアラ ■■■■ ← 2 3 4 5 6 リス □□□□□□□□□□ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</p> <p>① コアラとりすより多いコアラの数をブロックで表す。 ② コアラが4。リスはコアラより6多いのだから ③ コアラと同じ数のりすの数を■の下に□で置く。 ④ コアラと同じりすの数の4と6をあわせる ⑤ そうすると 式は $4+6=10$ 答え 10ひき</p> <p>3. まとめをする。 コアラと同じ数のリスの数をブロックで表すことによって、リスの数を求める式になることがわかる。</p> <p>4. 評価問題に取り組む。</p>	<p>異種の数量をブロックに置き換え、1対1対応させることによって、同種と捉えることができ、求大の場面には加法を適用することがわかる。 【知識・理解】</p> <p>評価問題</p> <p>■に対応する□をおくことにより、4を「コアラと同じ数のリスの数」と捉える。</p>
		<p>たすのかな ひくのかな</p>	
4	本時		

